

2011年度 一般選抜(前期日程) 国語 出題のねらいと解答例

出典

外山滋比古 「第四人称」

出題のねらい

語句の意味・用法などを理解した上で使いこなす能力、文章の構成や表現の特色を捉える分析力、論理の展開や要旨を的確に読みとる理解力、内容全体を総合的にまとめる論理力、論理的な構成を工夫して自分の考えを文章にまとめる構成力をみる。

今年度の問題では、昨年度同様、長文を読ませ、書かせる力を求める一方、客観的な問いも出題した。

解答例

第一問(配点20点)

問一(各1点 計10点)

- (い) 拒 (ろ) 臨 (は) 誉 (に) 埋没 (ほ) 脱却 (へ) 厄介  
(と) 配慮 (ち) 粗末 (り) 遅延 (ぬ) 浅薄

問二(各1点 計6点)

- (ア) ふえて (イ) はんぎつ (ウ) けんしき (エ) こせき  
(オ) さんみいったい (カ) すうはい

問三(各2点 計4点)

- (a) 2 (b) 4

**第二問(配点60点)**

**問一(10点)**

訓点読み、返り点読みは、漢文を原文そのままに日本に移入することを可能にした。しかし日本における翻訳の出現を阻む原因にもなった。英語文化移入の初期にも用いられたが、あまりに煩雑なため使用されなくなった。(100字)

**問二(10点)**

英文の翻訳者には教職者が多く、かれらは本業にさしきわることを恐れて、誤訳がないように愚鈍な原文忠実を守ってきたのではないかという想像。(67文字)

**問三(10点)**

翻訳は原文に忠実であればそれだけでよいというような翻訳についての常識を越えて、翻訳を翻訳論としておもしろく考察できるには、常識に捕らわれず常識を相対化できるくらいの文化社会としての成熟度が必要であるから。(100字)

**問四(10点)**

著作物は著者によって生まれるが、それだけではまだ文書に過ぎず、読者に読まれることではじめて印刷物は自立し生命を持つからである。このことは、活字印刷文化の発達により明確になった。また読者を意識することで言語表現への考察が深まるためである。(117字)

**問五(各2点 計10点)**

- (1) d (2) a (3) d (4) a (5) c

**問六(5点)**

原文忠実

**問七(5点)**

ヨコのをタテにする

**第三問(配点20点)**

**評価方法**

文章の明快さ、語句の適切な使用、概念の理解、記述の論理性などを総合して評価する。

以上